

■After 建築名称 下段: 英語名	カステッロ・ディ・リヴォリ現代美術館 Castello di Rivoli Museum		
建築用途	大分類 展示施設	小分類 美術館	
改修設計者	Andrea Bruno	URL	
所在地	イタリア、リヴォリ	Google Map	
改修年	1984	撮影者提供者 柳沢伸也 (2005年)	
建築規模			概要 after 長い間うち捨てられていた居城を現代美術館へと転用した事例。工事中断の未完のファサードをそのまま保存し、新しく付加するものと明確に区別している。
掲載書誌	https://www.castellodirivoli.org/la-residenza-reale/manica-lunga/restauro/		
賞・選定			
■Before 建築名称	Castello di Rivoli		概要 before 17世紀に建設されたサヴォア公爵の居城のひとつ。戦争や侵略による度重なる破壊のため、計画は頓挫し打ち捨てられた。軍用施設、馬小屋、廃車場などに使われていた。
建築用途	大分類 住居施設	小分類 住宅	
■写真 Before	After 保存と増築を明確に区別したデザイン	After 芝生に囲まれたカフェ	
			
作図	撮影者提供者 柳沢伸也 (2005年)	撮影者提供者 柳沢伸也 (2005年)	
■リノベーション内容	キーワード 用途変更、大規模改修、外観保存、対比、補強、痕跡、遺構、アート	内容 トリノから西へ約10キロのリヴォリに、古い城を現代アートの美術館に再生させた事例。美術館の前身は、17世紀に建てられたサヴォア公爵の居城のひとつであった。しかし、度重なる戦争や侵略のため破壊され、ほとんど使用されないまま、軍用施設や馬小屋、廃車場等、不運な運命に置かれていた。建物は、旧サヴォア家の居城と、長さ140mの私設ギャラリーの2つから構成され、当初は2つの建物とはつなげる予定であった。 建築家アンドレア・ブルーノは、現代美術館として再生させる際に、こうした未完成の状態をそのまま保存し、新しく加えるものは過去の遺産とはっきりと区別するデザインを基本方針とした。したがって、バツサリと切り落とされたような建物ファサードはそのまま保存され、ガラスでそっと開口部をふさいでいる。鉄やガラスといった現代的な材料を用いて、歴史の厚みを浮かび上がらせることに成功している。	
■備考	機能上、新設した階段は鉄骨で上部から吊り、オリジナルのどっしりとした階段と対比させている。		
■作成者 氏名/所属	柳沢伸也/JIA再生部会		管理者 記載 SY-020